メトロ・ワールド・チャイルド　ニュースレター2023 年 11 月号
メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン　東京都中央区銀座5-14-6 橋ビルⅡ7F　TFC 内

The METRO REPORT

だれも見捨てないクリスマス！

オペレーション・ホリデー・ホープ（OHH）の活動（クリスマスのメッセージの週にメトロの教会学校に参加したすべての子どもたちにクリスマスプレゼントを渡す働き）によって、昨年のクリスマスには、世界中で 332,420 人以上の子どもたちがプレゼントを受け取ることができました。

今年のクリスマスは、あなたのような友人の力強い祈りとご支援のおかげで、今年新たに加えられた子どもたちと共に喜ぶことができます。

メトロの教会学校が次々と新設され、かつてないほど多くの子どもたちに福音が伝えられています。今年のクリスマスには、OHH の活動を通じて４５万人以上の子どもたちを祝福する準備をしています。

その多くの子どもたちがこのクリスマスの本当の意味を初めて知ることになるでしょう。自分のために準備された特別なプレゼントをもらうのは初めてという子どももいます。そして、誰からも顧みられることなく、絶望的な状況の中で育つ子どもたちも、誰かが自分のことを知って助けてくれること、気にかけてくれていることを、初めて知ることでしょう。

11月25日（土)締切

OHH&ケニア学用品
締め切りは、１１月２５日(土)です。

今月の引き落とし日！
１１月２７日(月)です。

今月号の目次

P２～５…ビル師からのガザ地区支援活動報告
P５…クリスマスプレゼントのお願い
P６…日本事務所からの重要なお知らせ

【＊お願い】ご住所を変更された方は、日本事務所までご連絡ください。（自動転送されません）　連絡先は最終ページでご確認ください。

ビル師メッセージ

ビル・ウィルソン師のフェイスブックや、万代牧師のメッセージですでにご存知の方々もいらっしゃると思いますが、ガザ地区での支援状況についてビル師の投稿記事からお伝えします。

また戦争が勃発しました

ニュースですでにご存じでしょう。イスラエルで戦争が勃発し、現地は完全に混乱状態です。

戦争が勃発してすぐに、ガザ地区で日曜学校を行っていたメトロの奉仕者が2人、ガザ市内で行方不明となり、電話で報告を受けました。ご想像のとおり、戦争中は状況は非常に流動的であり、刻々と変化します。

彼らの両親の一人が私に電話をかけてきましたが、そこには電気もなく、携帯電話サービスは不安定で、通信は非常に制限され、彼らに何が起こったのかはわかりませんでした。

私はすぐに、ガザ地区の私たちのチームのために今すぐ祈っていただきたいと SNS に投稿しました。

行方不明になっていたメンバーの一人、アフメドを失いました。彼はガザ地区のガザ市にあるメトロ日曜学校の先生の一人でした。10日火曜日の朝、ほぼ8年間メトロ日曜学校を開いていた同じ場所で死んでいるのが発見されました。

アフメドは、パレスチナ人で、ユダヤ人のアンドリューと一緒に働きをしていました。彼らは、子どもたちにイエス様について教えてきた仲間であり、確かに最善を尽くしてきました。彼は月曜日にハマス武装勢力によって虐殺され死亡しました。彼の母親によると、火曜日に遺体で発見され、喉が骨が見えるまで切り裂かれていたということです。

明らかに、今は私たち全員にとって厳しい時期です。言葉もありません。本当に…私は母親と共に電話で泣きました。彼女は、息子とアンドリューが私を父親のように慕っていたと言いました。なぜなら、彼らの父親は、なぜ一緒に働きたいのか、なぜ子どもたちにイエスについて話したいのかを理解していなかったからだそうです。それを誰にどう説明すればよいでしょうか？ わかりません。

ただ魂の救いのために

私がこの二人の若者に初めて会ったのは8年前、テルアビブのベングリオン空港でした。彼らは私に連絡してきて、「お願いです、お願いです、お願いです…ガザ地区の子どもたちにとって唯一の望みは、イエス様を救い主として知ることです」と言いました。

誰かが二人に聖書をあげたことで、彼らの人生は変わりました。誰かが彼らのことを気にかけてくれたから、彼らは真実を知り、救い主に出会えたのです。

たとえ厳しい中でも、中断と再開を繰り返しながら、彼らは決して諦めませんでした。アンドリューはアフメドと共に働くためにイスラエルから国境を越えることにしました。彼らは素晴らしい若者たちでした。彼らを心から誇りに思っています!!!!

毎週土曜日には 500 人の子どもたちがメトロ日曜学校に通い、日曜日には別の 500 人の子どもたちのために2度目の日曜学校を開催していました。月に一度は、ジャバリア難民キャンプにも出向いていました。

彼らは、手持ちのわずかなお金で最善を尽くしました。私たちもできる限り彼らをサポートしようと努めてきました。彼らの1人は、小型の音響システムを購入し、週末に子どもたちにできるだけ多くの食料を持っていくために、パートタイムの仕事で資金を稼いでいました。この写真は彼らが日曜学校を行っていた場所です。

おわかりでしょう。ガザの子どもたちは、もし彼らがそこに行かなければ、イエス様のことを聞く機会などなかったでしょう。

他のパレスチナ人の中には、特にアフメドがユダヤ人と一緒に働いていたのが、気に入らなかった人がいたことでしょう。そして彼らは、子どもたちをキリストに導いていることを苦々しく思っていました。

私たちの中には、必要ならそれをする人もいるでしょう。しかし、アフメドにとっては、福音を伝えることがすべてでした。

とても興味深いことに、アフメドが殺害された同じ日に、別のメトロ日曜学校が新たにスタートしました。その日、アフリカのルワンダで日曜学校が始まったのです。

私は戦争がどのようなものか知っています。その実態を知っています。その気持ちがわかります。それは決して容易なことではありません。決して生易しいものではないのです。きっと、身体的苦痛や涙や心の痛みもあったことでしょう…。母親はまだ電話で泣いていました。ですから、アンドリューとアフメドの母親のために祈ってください。彼女はキリストを受け入れたと言いました。アンドリューは無事に家族と再会しました。彼らの心は傷ついています。彼らはキリストにある兄弟であり、御国と子どもたちのために最善を尽くしたのです。

死んでも生きるのです

アフメドの母親は、10日ほど経って、ようやく息子の遺体を引

き取り、21日にとても簡素な葬儀を執り行って彼を埋葬しました。子ども、家族、私たちの多くにとってクリスチャンの兄弟、そしてガザの献身的なメトロ・ワールド・チャイルド・チームのメンバーを失うことが非常につらいことであることは誰もがおわかりでしょう。

ニュースでご覧になった方も多いと思いますが、ガザ地区では、多くの人々にとって極めて危険な状況であり、それも刻一刻と変化しています。アフメドの葬儀で、彼が主に導いた若い奉仕者のうちの3人が、その週末もメトロ日曜学校を継続する決意をしました。彼らは、アフメドを忘れたくなかったのです。3人の中の最年長で 20 歳のハンは、リスクは承知していますが、パレスチナの子どもたちが福音を聞くために命を捧げるのは、イエス様が、十字架で死んでくださったのと同じ理由だと語っていました。

アンドリューはイスラエル人で、アフメドの親友でした。 彼は、メトロの奉仕者が日曜学校を始める予定のガザ北部のジャバリア難民キャンプにいる、食料不足が深刻なパレスチナ人の子どもたちのために、トラックがいっぱいになるほどの食料を手に入れて運ぼうと努力しています。彼は国境まで食料を運び、私たちの若いパレスチナ人奉仕者がそれを受け取って、日曜学校の最後に子どもたちに配る予定です。

大切なのは子どもたちの命であり、戦争とは何の関係もありません。この子どもたちにとって、今、そして永遠に、生きるか死ぬかの問題なのです。

アフメドが死んだのは、この子どもたちに変化をもたらす唯一のものが、福音であることを8年の間、理解していたからです。そして今、ユダヤ人メンバーのアンドリューとパレスチナ人の奉仕者は、文字通り生きている者と死んだ者の間に立つことに、これまで以上に情熱を持っています。

アフメドの死後、初めての週末は大変重要ですから、子どもたちのために、チームのために、そして、国境を越えて食料を届けられるように祈っていただきたいと、再度 SNS に投稿しました。彼らはそこで、たとえ戦争の最中であっても、メトロ日曜学校を再開します。そして、この戦争の最中でも、活動はまだ続きます…イエスの御名において…。

主の奇跡が起きました

再開された日曜学校の最初の週に、なんと合計で 1,112 人のパレスチナの子どもたちがガザで福音を聞きました。彼らのほとんどにとって、それが人生で初めての出来事でした。

メトロの3人のパレスチナ人の日曜学校奉仕者は、土曜日には、できるだけ多くの子どもたちを訪問して、ジャバリア難民キャンプのメトロ日曜学校に来るよう誘いました。彼らはリスクを承知していましたが、降りかかる可能性のあるリスクよりもその見返りがはるかに大きいことを理解していました。

イスラエル人チームメンバーのアンドリューは、子どもたちのために食料調達に出かけ、イスラエルのスーパーマーケットの経営者に話をしました。ユダヤ人のオーナーは、彼らがやろうとしていることにとても感動して、クリスチャンではありませんが、パレスチナの子どもたちのために売れ残った魚と2日前のパンを寄付することにしました。

どれだけの食料が手に入るかわかりませんでしたし、アンドリューは小さな車しか持っていませんでしたので、その食料が彼のバンにどれだけ積めるか全く分かりませんでした。最終的に、国境にいるパレスチナ人の奉仕者と連携して、食料は難民キャンプに届けられました。

日曜学校の集会は素晴らしいものでした。ニューヨークのメトロ日曜学校がその週に教えた内容と同じ、「恐怖」について子どもたちに教えました。「神様は、恐怖を克服する力をあなたに与えた」と。ガザに住む子どもたちにとって、恐怖は非常に身近なものであることはおわかりでしょう。彼らは難民キャンプで長い間暮らしており、今、この紛争の最中で状況はさらにひどくなっているのです。

メトロの日曜学校の案内をしに訪問すると、子どもたちの両親は、驚いていました。ほとんどの人は今、この状況下で子どもを外に出したくないのです。しかし、メトロのことを知っていたので、信頼してくれました。

チームの 17 歳の奉仕者のデリは、神様が自分と共におられるとことがわかる。子どもたちにイエス様のことを語り続け、食事を与え続けると言ってくれました。日曜学校の最後に彼らが食べ物を配り始めた時、足らない気がしましたが、「ただ祈るしかない」と言い、配り続けました。提供された、売れ残った魚と2日前のパンを配っていると、彼らに何が起こったと思いますか。あの奇跡が起こったのです! 1,112 人の子どもたち全員が、食事をもらうことができ、み言葉を聞いたのです。本当に、奇跡でした!!

チームのメンバーが箱に手を入れ続けると、食べ物が出てきました。食べ物がそこにありました! とても聖書的ですよね。メトロの奉仕者は、次の日曜日の日曜学校に自分たちが食料を持ってくるまで、このうちのほとんどの子どもたちに、食べ物がないことを知っていました。

すべては何年も前、あるクリスチャンが、ユダヤ人の若者とパレスチナ人の若者に聖書を手渡した時に始まりました。たった一人の人が、本当に変化を起こせると思います。それでメトロの日曜学校は8年以上前に発足したのですから。

保護者の一人が奉仕者の一人にこう尋ねました。「どうしてこんなことをしているの? アフメドに何が起こったか知っているでしょう。私たちは知っていますが、これを続ければ、あなたに何が起こるか知っておくべきだと思いませんか? 悪い人たちがあなたのことを聞きつけ、何をしているのか見たら…わかりますよね。」

ダイアーはとてもうまく答えましたが、これは、私たち全員の思いを代弁しています。「生まれた時からユダヤ人を憎むように教え込まれてきたパレスチナ人の子どもたちを変えるのは、これしかない。パレスチナ人の次世代を変えることができる唯一のものは、イエス・キリストです。」

「だから、私たちは必要なら命を投げ出しても、この子どもたちにイエス様を知ってもらいたいのです。神様は、私たちに恐れの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊を与えたのです。私たちはこの子どもたちに教えなければなりません。それがパレスチナの子どもたちにとって唯一の希望だからです……」

日曜学校が終わり、その日の別れの時、彼は子どもと親たちに「みんな、次の日曜日に会おうね」と言いました。

皆さんが、ご自分が何の一員であるかを知っていただければ幸いです。いつも言ってきたように、私たちは、あなたによって遣わされた宣教師です。本当にそうなのです! あなたは今朝、ガザ地区の難民キャンプで私たちと、チームのメンバーと、子どもたちと共にいたことを、本当にご存知でしょうか? 本当にそう思っていますか?

そこにあったのは、売れ残りの魚と古くなったパンだけでした…しかし、あなたは確かにそこにいて、生きている者と死んだ者との間に立っていたのです。

そして、これはまさに、知っていることを実行すれば、何をすべきかわかるということです。これも、私が何年も言い続けてきたことですが、今日もう一度言います。それは本当です。自分が知っていることを実行すれば、何をすべきかが本当にわかります。

2 週目も奇跡は続きました

翌週の正午、メトロ日曜学校の先生のリーダーが、ジャバリア難民キャンプで再び開始の笛を吹きました。そして、奇跡は続きました。このことをどう伝えるのが最善かわかりません。私が言えるのは、メトロ・ガザのチームが、戦争のさなか、爆破された建物の間で 1,814 人の子どもたちがイエス・キリストの福音を聞いたということです。

アンドリューは、地元のイスラエル人のパン屋に子どもたちのためにパンを作ってもらい、ジャバリア難民キャンプに持っていけるだけの水を調達して持って行くことができたと報告してくれました。ほかのイスラエル人の友人が、片道5キロ近くも自転車に乗って、水と物資を積んだカートを引っ張って、自分たちのいる場所と国境を越えたガザとの間を往復してくれたのです。

彼らが活動している間、私はニューヨーク州の北部にある支援教会で説教しながら、事態がどうなっているか、アンドリューからの電話を待っていました。食料は届いたか? けが人はいないか? 今日子どもたちに配る食料は足りたか? 皆さんと同じように、私も彼らのことを思いめぐらしながら、祈ってきました。ようやく30日の午後 4 時 30 分に電話がありました。

彼はそれをやり遂げました!! 必要な食料をジャバリア難民キャンプに届け、日曜学校の後に 1,814 人の子どもたちに食事を与えることができました。彼らは、爆破された建物の間の路上で活動していました。

年長の子どもたちは、屋外の路上に座り、未就学児はロケット弾攻撃に備えて物陰にいました。未就学児クラスを担当した奉仕者は、子どもたちに散乱しているレンガを拾わせ、小さな椅子代わりにしました。全貌を表現するのは困難です!!!

ダイアーは、初めて救われたときに覚えた古い讃美歌「ハレルヤ…ハレルヤ…」の曲を思い出し、その曲を元に子どもたちと一緒に、「ありがとう、イエス様…」と歌いました。あなたにどう伝わるか分かりませんが、私はこの曲を口ずさんでいると、涙が頬を伝いました。

日曜学校の奉仕者は、食べ物が、イエス様と、イエス様を愛する世界中のクリスチャンから届けられたものであることを子どもたちに教えました。

日曜学校の後に、チームがパンと水を配っていると、一人の小さな男の子がパンを手に取り、奉仕者たちにパンを切って、いくつかに分けてほしいとお願いしました。その子は、それを家に持って帰り、兄弟たちにあげたいと思ったのです。

とても小さな女の子が、空き缶を2つ持って日曜学校にやって来ました。それは、先週の日曜日に私たちが彼らに渡した

缶詰の空き缶でした。彼女の母親は、先週、それを使って家族全員を食べさせることができました。少女は、病気の母親のために水を分けてもらい、その缶に入れて持って帰ろうと思って、空き缶を取っておいたのです。

さて、私たちはアフメドが殺害されてから2週目を迎えました。これらの若者たちは立ち上がり、再び同じことをやってのけたのです。地上攻撃が強化されているこの状況で、彼らがいつまで日曜学校を開催できるかは全くわかりません。パンや水、その他の必要物資を探し出すために国境を越えることさえできればと思います。

しかし明らかに、チームの使命感は人間的感情に勝っています。何年も前にテルアビブで私が彼らに教えていた時、彼らは、私がそう話すのを聞いていました。そして今、彼らは学んだことを実際に実践しなければなりません。

「2分前合図」についてご存知の方も多いかもしれませんが、サッカーの試合では、試合終了の2分前に合図があります。たとえその時点で一方のチームのスコアが相手チームに大きく引き離されていたとしても、選手は諦めません。彼らはあらゆる可能性、得点の機会を求めて戦い、戦い続ければ、勝てるかもしれないと信じ続けています。

それで、私たちは今ここにいて、日曜学校に来るパレスチナの子どもたちの魂のために戦っています。試合の残り時間2分にいる気分です。多くの子どもたちにとって、これがイエス・キリストの話を聞く最後のチャンスになるかもしれないのです。

毎日このような大変な危機的事態が目の前にあり、次の日曜日にまた日曜学校があるかどうかわからないまま、私たちは、大きくて明確な2分前の合図を聞いています。

ですから、私たちはイエスの名の下に、最後まで戦い続け、できる限り多くの勝利を収めます。

Bill

下記のサイトからご支援いただけます。
スマホはこちらから⇒

https://metroworldchild.jp/offering/

だれも見捨てないクリスマス！

あなたなしでは成し遂げられません！

みなさんのご支援がなければ、私たちは何一つ活動を継続することができません。あなたのご支援と祈りに対して感謝の気持ちを十分に表現できる言葉は見つかりませんが、私たちの感謝の気持ちが伝われば幸いです。

OPERATION HOLIDAY HOPE

今年のクリスマスに、見捨てられる子どもが、一人もいないように、今すぐプレゼントをお申し込みください。

オペレーション ホリデー ホープ(OHH)を通じて、メトロ・ワールド・チャイルドが世界中の子どもたちにイエスの愛を届けられるようご支援ください。今年のクリスマスに、子どもたちが見捨てられたと感じないように、できるだけ多くのプレゼントを渡すために、今すぐプレゼントをお申し込みください。

日本事務所からの重要なお知らせとお願い

支援は続いています！

メトロ・ワールド・チャイルドでは、ガザ地区だけでなく、ウクライナ市民支援もトルコ・シリア地震の復興支援も継続中です。支援献金も引き続き受け付けていますので、よろしくお願いいたします。

どのような支援も、現地に直接の知り合いや支援者、メトロのスタッフがいなければ、実現することは困難です。世界的な大きな団体が資金を集めても、実際に現地に出かけて支援することは困難な場合がほとんどで、メトロがその働きを担うこともあるのです。

いつもそこにいて活動を続けているメトロならではの機動力と人間関係が、最終的に支援を必要としている人々に届くために必要なのです。

違いを生み出す月曜日！

メトロの働きは各国で急激に拡大し、サポートの必要な子どもの数は、飛躍的に増えています。**新規スポンサーを常時募集**していますので、よろしくお願いいたします。コロナや戦争で、貧困地域の状況は悪化し続けており、ケニアでは、以前から食事をまともに食べることができない子どもがたくさんいましたが、今はさらに深刻な状況です。現地を訪問した若いスタッフは、その悲惨さを目撃して、「違いを生み出す月曜日」のキャンペーンを発案。一人でも多くの子どもにスポンサーを見つけようと努力しています。どうぞ、身近な方々にメトロをご紹介ください。

メトロ紹介＆申込サイト⇒
https://metroworldchild.jp/metrogenerallp/

ビル師セミナー変更！

来年３月の日本でのセミナーが日程変更されることになりました。ビル先生のスケジュールと日本の皆様の動きを考え併せて、もう一度日程を調整してご連絡申し上げます。

お申し出くださっていた方々もいらっしゃいましたので、大変申し訳ございませんが、どうぞご了承ください。

皆様には、新たな日程が決まり次第ご連絡申し上げます。

世界情勢が大変不安定で、ビル先生やメトロへの支援の依頼も増え続けています。どうぞ子どもたちやスタッフの安全と健康が守られるように、そして何よりも、子どもたちの魂の救いのためにお祈りください。

日本事務所よりごあいさつ！

良い季節を楽しんでいらっしゃる方々も多いことと思いますが、皆様お元気でしょうか。

左記の通り、大変残念ながら、来年３月に設定したセミナーが急遽中止となりました。改めて日程を調整中ですが、必ず来年開催しますので、ぜひご期待ください。

メトロの働きは本当に急拡大しています。今月最初には、477,000 人以上の子どもが世界中のメトロの教会学校に参加しました。まだまだ各地からのメトロの教会学校の開始要請は続いています。新たな場所での扉は開き続け、ビル先生はじめ、世界中のスタッフは多忙を極めています。本部でも、現地でも、奉仕者の数が圧倒的に不足しています。どうぞ献身者が次々と起こされるようお祈りください。

クリスマスシーズンが近づきました。皆様の健康が守られて、主の到来を喜びと感謝をもって迎えられますようにお祈り申し上げます。

日本事務所代表　万代栄嗣(まんだい えいじ)

メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地　〒104-0061
東京都中央区銀座５-１４-６
橋ビルⅡ７階　ＴＦＣ内
電　話　03-6264-7370（松山事務所 089-992-9020）
ＦＡＸ　089-925-1501
メール　metrojapan@mission.or.jp
URL　https://metroworldchild.jp/

すべてのお振り込みは、下記宛にお願いいたします。
ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金　００４１６１０
郵便局：記号番号　０１６５０-３-４１６１０
口座名義はどちらも同じ
メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン